

山やまのうへのおみおん上臣おん憶良おん、沈痾ぢんあの時の歌とき一首うた

九七八番

士をのこやも 空むなしくあるべき 万代よろづよに 語りかた継つぐべき
名なは立たてずして

おほとものまかのうへのいらつめ
大伴おほともの坂上まかのうへの郎女いらつめ、姪家持おひやかもちの佐保さほより西にしの宅いへ
に還帰かへるに与あたふる歌うた一首

九七九番

我わが背子せこが 着ける衣薄きぬうすし 佐保風さほかせは いたくな吹ふ
きそ 家いへに至いたるまで

あへのあさみむしまろ つき
安倍朝臣あへのあさみむしまろ麻呂つぎの月つきの歌うた一首

九八〇番

雨あまごり隠りり 三笠みかさの山やまを 高たかみかも 月つきの出いで来こぬ
夜よはふけにつつ